



平成29年10月26日

広島大学長表彰等の授与式について

平成29年度の広島大学長表彰等の被表彰者を決定し、以下のとおり、ホームカミングデーのオープニングセレモニー内において、授与式を執り行います。

「広島大学長表彰」制度は、平成14年度に創設し、教育・研究や社会貢献などで特色ある顕著な業績を挙げ、広島大学の発展に貢献した本学教職員や団体および学外の個人や団体を表彰するものです。

また、「広島大学教育賞」制度は、平成28年度に創設し、本学における教育の実践において顕著な成果を挙げたと認められる教員を顕彰することにより、教員の意欲向上並びに教員の教育方法及び教育技術の向上を図り、もってより優れた教育の推進に資することを目的に表彰するものです。

記

日 時：平成29年11月4日（土）10：20～

（広島大学ホームカミングデーのオープニングセレモニー内）

場 所：広島大学東広島キャンパス サタケメモリアルホール

各表彰：（1）広島大学長表彰 【14人】

広島大学の発展に貢献した者を表彰

（2）広島大学長特別表彰 【2人】

広島大学のみならず広く社会一般に貢献のあった者を表彰

（3）Phoenix Outstanding Researcher Award 【7人】

若手研究者（45歳未満の准教授・講師・助教）のうち、平成28年に執筆した論文数の多かった大学教員を表彰

（4）広島大学教育賞 【3人】

教育の実践において顕著な成果を挙げたと認められる者を表彰

※ 被表彰者の氏名は別紙のとおり。

《参考》広島大学長表彰について

広島大学トップページ>大学案内>受章・表彰>学長表彰

http://hiroshima-u.jp/about/awards/presidents_awards

広島大学トップページ>大学案内>受章・表彰>広島大学教育賞

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/awards/kyoikusho>

【お問い合わせ先】

広島大学長表彰他（1）～（3）

財務・総務室人事部 服務グループ 鳥山 剛、伴 茉実

TEL:082-424-6024 FAX:082-424-6080

E-mail : fukumu-fukumu@office.hiroshima-u.ac.jp

広島大学教育賞（4）

教育室教育部 教育支援グループ 舟木 理華

TEL : 082-424-6154 FAX : 082-424-6170

E-mail: kyoiku-group@office.hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 3枚（本票含む）

平成29年度 広島大学長表彰 被表彰者(学外2名, 学内12名)

所属	職名	氏名	業績概要
株式会社デンソー	半導体回路開発部長	あがつま しゅうじ 我妻 秀治	会員相互の協力によって高精度モデルを迅速に開発する世界初の産学連携組織HiSIM Consortiumを立ち上げ、4年に及ぶ活動から開発・公開した超高耐圧系のモデルが製品開発に使用され、本学の知財財産が対価を受ける道筋をつけられるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
日東電工株式会社	全社技術部門新規事業本部スペースイノベーション技術センター長	みやたけ みのる 宮武 稔	日東電工株式会社において異分野融合の技術者チームを統制し、他のメンバーと共に超薄型偏光膜の新製法の発明を行い、平成29年度全国発明表彰の「内閣総理大臣賞」を受賞されるなど、本学出身者として、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院医歯薬保健学研究科	教授	あらい かずお 粟井 和夫	学部単位の模擬試験を導入して本学の医師国家試験合格率上昇に寄与されたほか、医学科教育カリキュラムの改革、課題解決型高度医療人材養成プログラムの採択及び実施、死因究明教育研究センターの設立にも尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院理学研究科	助教	いけだ としあき 池田 俊明	キラル超分子集合体を用いた刺激応答性円偏光発光材料の研究において、国際的に高い評価を得られるとともに、国内唯一の円偏光ルミネセンス測定装置の共同利用を促進し、本学の共同利用・共同研究拠点の機能強化に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院総合科学研究所	助教	いしはら やすひろ 石原 康宏	ドコサヘキサエン酸が、脳内でエストラジオール合成を活性化し、てんかん発作を軽減することを明らかにされたほか、指導する学生が学会賞を受賞するなど、研究活動及び教育活動の両面において、本学の発展に顕著な貢献をされました。
放射光科学研究センター	助教	いずみ ゆうだい 泉 雄大	放射光を利用した物性研究の手法を放射線生物学分野に導入し、新たな異分野融合領域を開拓したDNA損傷修復機構に関わる研究成果が、国内外の学会で高く評価されたほか、共同利用・共同研究拠点の機能強化にも取り組まれるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院教育学研究科	教授	いそざき てつお 磯崎 哲夫	指導した学生の大学教員就職、学会賞の受賞及び海外渡航奨学金の獲得ほか、学生のための国際セミナーの開催など、学生の教育・研究に対する卓越した指導力及び実践力を発揮し、人材育成に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院工学研究科	准教授	かたざりきよふみ 片桐 清文	文部科学省研究振興局の学術調査官として科学研究費助成事業(科研費)に関する調査・指導等を行い、制度運営に大きく寄与されたほか、その経験で得た知識をもとに、本学における科研費の応募及び採択件数の増進活動に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院工学研究科	特任教授	しずま きよし 静間 清	長年の研究による経験を生かして確立したゲルマニウム半導体検出器による温泉水ラドンの測定法が、環境省の鉱泉分析法の一つとして認められ、都道府県知事の登録を受けた者(登録機関)の行う温泉成分分析の方法として採用されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院理学研究科	教授	はいの たけはる 灰野 岳晴	キラル超分子集合体を用いた刺激応答性円偏光発光材料の研究において、国際的に高い評価を得られるとともに、国内唯一の円偏光ルミネセンス測定装置の共同利用を促進し、本学の共同利用・共同研究拠点の機能強化に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院教育学研究科	准教授	はやしだ まさし 林田 真志	東広島市教育委員会及び同市こども未来部こども家庭課と協働し、障害の可能性のある幼児児童生徒への早期支援のロールモデル事業を構築されるとともに、これらの事業に従事する学生の顕著な実践力向上に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院生物圏科学研究科	准教授	ほその けんじ 細野 賢治	広島県の中山間地域・島しょ部を対象にした教養ゼミや体験学習等を通じて、学生が積極的に地域に出かけ実践から課題解決までを学習する仕組み及び学生が地域と共に学ぶ仕組みを確立し、地域と連携した地域志向型人材育成に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
HiSIM研究センター	HiSIM研究センター長	またうしゅ Mattausch, はんす ゆるげん Hans Juergen	会員相互の協力によって高精度モデルを迅速に開発する世界初の産学連携組織HiSIM Consortiumを立ち上げ、4年に及ぶ活動から開発・公開した超高耐圧系のモデルが製品開発に使用され、本学の知財財産が対価を受ける道筋をつけられるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院先端物質科学研究科	准教授	みずぬま まさき 水沼 正樹	酵母及び線虫を使用した、細胞周期や老化・寿命制御に関する独創的な研究により顕著な研究業績を挙げ、複数の学会賞を受賞し、国内外で高い評価を得られたほか、国際共同研究を積極的に推進されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。

平成29年度 広島大学長特別表彰 被表彰者(学内2名)

所属	職名	氏名	業績概要
大学院理学研究科	助教	たかはし ひろみつ 高橋 弘充	多くの学術研究論文が高度に引用されるなど優れた研究業績を挙げられ、本学のみならず学術分野の発展に寄与されるとともに、本学のレピュテーション向上に、特に顕著な貢献をされました。
宇宙科学センター	准教授	みずの つねふみ 水野 恒史	

平成29年度 Phoenix Outstanding Researcher Award(学内7名)

所属	職名	氏名	業績概要
宇宙科学センター	准教授	うえむら まこと 植村 誠	本学の若手研究者として研究活動に邁進し、多くの学術研究論文を執筆されるなど、優れた研究業績を挙げられ、本学の研究力の向上に顕著な貢献をされました。
大学院理学研究科	助教	おかべ のぶひろ 岡部 信広	
大学院医歯薬保健学研究科	助教	かしま さおり 鹿嶋 小緒里	
大学院理学研究科	特任講師	さくま てつし 佐久間 哲史	
大学院工学研究科	助教	たなか さとゆき 田中 智行	
大学院国際協力研究科	准教授	ちゃん だん TRAN DANG すあん XUAN	
大学院先端物質科学研究科	准教授	なかの みやこ 中堅 三弥子	

平成29年度 広島大学教育賞 被表彰者(学内3名)

所属	職名	氏名	業績概要
大学院国際協力研究科	教授	ふじわら あきまさ 藤原 章正	「21世紀COEプログラム」、「魅力ある大学院教育イニシアティブ(i-ECBO)」、「大学院教育改革支援プログラム(G.ecbo)」、「博士課程教育リーディングプログラム〜たおやかで平和な共生社会創生プログラム」、「戦略的環境リーダー育成拠点形成事業」など多くの大学院教育プログラムにおいてリーダーやコーディネーターとして主導的役割を果たされました。英語による文理融合型教育研究活動を推進するなど、本学の大学院教育の国際化に大きく貢献されました。
大学院総合科学研究科	准教授	まちだ あきら 町田 章	教養教育科目の英語および専門科目の言語学の授業に積極的にアクティブラーニングを取り入れると共に、教材に関してインターネット映像等を活用した工夫を加え、講義で毎回フィードバックを行うなど、学生の主体的な学びを良く支える授業を実施することで本学の学生教育に顕著な貢献をされました。また、学生に対して実施した「My Best Teacherを選ぼう」アンケートでも、最高の投票数を獲得されました。
大学院医歯薬保健学研究科	准教授	まつした たけひこ 松下 毅彦	医学教育の改革の中心として、コンピテンシーを明確にしたアウトカム基盤教育の実施、診療参加型臨床実習の導入など、学部教育全体を根本から組み直すと共に、教育効果を高めるために全ての講義においてクリッカー使用による逐次確認を導入するなど、具体的な教育方法改善により、医学部における教育改善への貢献にとどまらず、本学全体のモデルとなる教育活動をされました。

(学外、学内、五十音順に記載)